

平成30年度 第10回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日時 平成31年3月15日（金曜日） 13時30分から15時まで
 会場 東京都心身障害者福祉センター 12階研修室
 出席者 佐藤委員長、北川委員、杉田委員、塚田委員、中島委員、花形委員、藤井委員、吉澤委員、池田委員、堤委員
 傍聴 6名
 欠席者 秋元委員
 事務局 東京都心身障害者福祉センター6名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料確認 資料1 私たちが目指す相談支援専門員の姿 Ver. 6案（第10回検討会用） 資料2 平成30年度東京都相談支援従事者研修検討会活動報告（案）（第10回検討会用） 参考資料1 新カリキュラム対応 初任者研修スケジュール（第9回資料再掲） 参考資料2 平成30年度 東京都相談支援従事者研修検討会 現任研チーム報告書（第9回資料再掲）
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の検討会での活動については、2月26日に行われた、東京都自立支援協議会第2回本会議で、サービス管理責任者等研修検討会と併せて概要を報告した。最終報告は、来年度第1回本会議にて行う予定。報告内容について、本日検討をお願いしたいと考えている。 今年度は、「私たちが目指す相談支援専門員の姿 Ver. 6」を完成させ、求められる相談支援専門員を養成するための研修のカリキュラムやテーマについて検討すると同時に、研修実施に当たって必要な多数の演習講師を養成する演習指導者養成研修のカリキュラムについても検討していただいた。 研修制度の見直しの中で、東京都として研修をどう実施するかを検討しており、その中で、民間のノウハウを積極的に活用するために、来年度よりサービス管理責任者等研修の基礎研修及び更新研修並びにフォローアップ研修を、民間事業者に委託することとなった。受託事業者が確定するまで公にできないため、このタイミングでの報告となった。 受託予定事業者は、公益財団法人総合健康推進財団。来年度のサービス管理責任者等研修検討会には、受託団体も参加予定である。 年度末の非常にお忙しい中検討会にご参加いただき、また、年間を通して忙しい業務の合間を縫ってご協力いただいた。心から感謝申し上げます。 今年度最後の検討会となる。活発な議論をお願いしたい。

2 検討事項

(1) 私たちが目指す相談支援専門員の姿 Ver. 6

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 「私たちが目指す相談支援専門員の姿 Ver. 6」について、前回検討会でもかなり検討をいただいた。その後、専門員の姿チームでまとめ、最終案として本日提案したい。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> 研修の説明をする部分では、「相談支援専門員のエンパワメント」は、サブタイトルとし、メインタイトルを「東京都の研修のしくみ」とした。 相談支援専門員もエンパワメントしていくという意味を強く伝えたかったが、言葉が一人歩きすると怖いので、「研修のしくみ」というあたりまえの言葉をメインに置き、サブタイトルに「相談支援専門員のエンパワメント」とした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・演習指導者養成研修は、東京都障害福祉の歴史についての講義をはじめとする今年度の内容は胸を張れることと考え、図の中のスペースを大きくした。 ・図右下の「国が考える、地域や立場の違いによる相談支援専門員の役割」は、私たちが考えたものではないため、点線囲みとした。 ・図の右上の「相談支援と地域」については、わかりやすさを考え、文言整理をした。「自分の地域」と「東京という地域」という表現は、見直しの途中でなくしていたが、やはりあった方が良く再掲した。 ・また、実際の研修で使用している資料等から言葉を拾い、3点に絞って表した。 ・前回と大きく変えたところは、赤い字で示してある。
塚田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・補足で、図中盤の「技術」の部分の番号の割り振りは、これまでは意図があって下から上に番号が振ってあったが、他の記述と統一させ、上から振ることにした。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・Ver. 6として、これで完成としたい。 ・来年度の各研修で、講師がこれを用いて、「東京都の相談支援専門員はこういうものを目指している」という説明をしていくものとして確定したいが、いかがか。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・とても整理されていて、わかりやすい。 ・演習指導者養成研修は、都の「売り」として前面に出たことや、国の考えと分けて記載されていることから、これで良いと思う。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・演習指導者養成研修について、これまで皆様が大切にしてきた、「受講者に、演習『指導者』として意識してもらおう」「東京都の中核人材となることを促す研修である」ということを、文字として表せたことは非常に大きいと感じる。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・演習指導者養成研修の部分は、前は「研修作りに参加する」ということだけだったが、かなり突っ込んだ内容になったと拝見した。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・Ver. 6については、これで確定とする。

(3) 平成30年度検討会活動のまとめ

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2が今年度の検討会の活動報告案。これをもって、検討会が1年間何をしてきたのかの大枠を、東京都の自立支援協議会に報告することになっているが、事務局より説明願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2は、第9回検討会で一度提示し、その際にいただいたご意見を反映させたものである。 ・変更点は、 <ol style="list-style-type: none"> ①「活動成果1」に、「目指す相談支援専門員の姿」の訂正 Ver. 6案を掲載 ②「活動成果2」の備考欄に、研修プログラムの特色を加筆 ③「活動成果5」では、国の実施する主任相談支援専門員養成研修参加について、「情報収集」だけでなく「都版プログラムの考え方の提案」を加筆
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「目指す相談支援専門員の姿 Ver. 6」ができたことで、東京都の研修の仕組みがかなり整理されてきたように思う。 ・「活動成果5」に、「主任相談支援専門員研修の都版プログラムの考え方の提案」とあるが、「素案を提案」でも良いのではないかと思うがいかがか。実施に近いところまで来ているという成果を出しても良いのではないか。 ・「素案」は「枠組み作り」と考える。話し合う枠組みができ、話し合いの中でアレンジを加えていくイメージである。皆さん多忙な中でせっかく時間をかけて考えられたので、「考え方の提案」だけで終わらせるのは忍びない。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書を作った後の議論は具体的にはしていない。ただ、研修中には、参加者で意見交換をする時間はあった。また、報告書の内容について、メールでやり取りはしたので、それを議論と置き換えて、素案という評価をしていただければ、それでも良いが。

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙な業務の中で、都の研修を作り、研修にも参加された労力は大変なもの。そういった面を東京都にも評価をしていただくために、言葉として必要であると考え。 ・「素案」とさせていただきたい。 ・この後は、来年度の検討会の議題となるようなキーワードをざっくばらんに出していきたい。 ・研修で加えたいことや、研修間で重なるところなどを議論していただきたい。 ・国の主任相談支援専門員養成研修に参加された方を中心にグループを作ったので、グループごとに話し合い、そのあとに内容を共有したい。
(グループに分かれて意見交換)	
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、グループごとに出た内容を共有し、意見交換をしていきたい。
花形委員	<p>【初任者研修について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミスポジション論が難しい。 ・29年度のマニュアルの方が、30年度のものよりわかりやすい。 ・5Picsは続けたいが、初任者の受講者でもわかりやすいようにする必要がある。 <p>【研修間の重複について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者・現任・主任研修の全てで「地域づくり」がどこかしらに出てくる。主任相談支援専門員研修では「地域づくり」がメインの演習になるが、初任者研修の時から「相談支援専門員は、地域づくりをすることも責務の1つ」と伝えることは大切なので、現行どおりで良いのではないかという話になった。 ・「課題焦点型スーパービジョン」は、現任・主任研修で重複するが、現任研修が新カリキュラムになると、この取り扱いがなくなるので、特に問題はないと理解している。
藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現任研修の新カリキュラムでは、「スーパービジョン」は講義で取り扱う予定
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムになれば、全く同じようなグループワークを、2つの研修で行われることはないということで解決した。 <p>【次期検討会へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現任研修のインターバル部分で行政からの協力を得るために、どう行政に説明するかという検討が不十分だった。どう仕組みを作っていくかを、議題として挙げて良いのではないかと。
堤委員	<p>【初任者研修について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(内容が) 難しくなった。久々に参加した障害当事者のまとめ役から、まとめ役は無理なので、サポーターとして参加したい、という声を聞いた。 ・根拠となるツールは大切だと思う。最近の初任者研修を受講した人の方が、実務的には役立つ研修を受けられることとなり、それなりの視点を持つこともできているのではないかと。 ・ミスポジション論と5Picsの説明が難しいので、昔行っていた説明の方がわかりやすいと感じた。自立生活センターの自立生活プログラムで、理想の自分と今の自分、その間にどういうステップを踏んでいくか、と作っていくものがある。そのようにわかりやすい表やツールができないか。 <p>【研修間の重複について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国は、初任者研修は個別支援、現任研修は地域支援、主に主任相談支援専門員研修で人材養成、という流れを示している。現在初任者研修で取り組んでいる「地域支援の入り口」をなくせば、アセスメントや社会資源の開発にもう少し時間がとれるのではないかと。 ・「スーパービジョン」は主任相談支援専門員研修で行えば良いが、それを戻すのは勇気がいる、現任で行っていたことで現場でも役に立ったなどの意見が出た。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援従事者研修にはすべて出たが、各研修で重なり合う部分は、言葉でうまく説明できていない部分だと思う。もう少し言語化して整理しないと、重なり部分の必要性の議論にま

	ではいかないと考える。
吉澤委員	<p>【研修間の重複について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任相談支援専門員研修ができて、現任研修と重なる部分がでてきた。チームアプローチやコミュニティワーク、スーパービジョンもそうかもしれない。 ・重なるテーマをどう整理するかの議論は、来年度行う必要がある。同じことをするとするのか、近い内容で構成するのか、差別化できるようにするのか、そんな論点で良いと思う。 ・整理に当たっては、主任相談支援専門員研修は「シラバス」というレベルで、国から示されている。一方現任研修は、都道府県ごとに検討という投げ方をされている。この状況を踏まえると、主任相談支援専門員がベースにあって、現任研修をどうするか、という議論をするイメージになる。 ・ただ、例えば「チームアプローチ」一つとっても、現任研修は1日かけることに對し、主任相談支援専門員研修は150分となっている。内容のレベルとしては、現任研修の方が高いものになるのではないか。もし国のカリキュラムを組み替えて良ければ、現任研修の講義で内容の入り口をおさえ、主任相談支援専門員研修の演習で応用や実践とする方法もある。 ・「スーパービジョン」は、国の想定では、現任研修で講義で触れ、主任相談支援専門員研修では短い時間で取り上げるので、東京都では演習指導者養成研修で取り入れるなど、どの研修で何を行うかの組み合わせは、整理が必要 ・具体的には、新しい現任研修のレベルをおさえている人でないと、都が求める主任相談支援専門員レベルにはならないかもしれない。 ・専門コース別研修について、テーマの検討が今年度だったとしたら、決定を早くしないとけない。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今出た意見は、来年度の検討材料として吸い上げておきたい。 ・改めて、皆さんが迷われている部分も出てきている。新しいものとのすり合わせもすると、かなり時間を要しそうだと感じた。同時並行で考えていかないといけないものもある。色々な方にご協力いただきながら、東京都が方向性を決めていくことになる。 ・研修間の重なりというところでは、どのように中身を振り分けていくのかは、早い段階で決めていった方が良いでしょう。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「取り組みやすく」ということは良いと思った。
堤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の間口が広がったことで、たくさんの受講希望があったとしても、実際に相談支援専門員として稼働しない人まで受講することになるとむずかしい。 ・研修の入口から専門性を重視してけん制するという考え方もあると思う。 ・個人的には、サポーターが入ることを意識すると、とっつきやすい形の方が良いと思った。そうしないと、サポーターが大変になる。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・消化して持ち帰ってもらうには、わかりやすい設定にする必要はある。
堤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は福祉の現場の人が多く、相談支援専門員として活動しなくても、何か持ち帰れるものがあればと思う。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、研修の間口が広いことで、相談支援専門員にならない受講者がたくさんいる。とは言え、サービス提供事業所の現場職員が大半であり、リアルニーズや個別支援の考え方は無駄にはならないと思う。 ・福祉現場全体への効果は高いと思うが、一方「相談支援専門員の養成」という本来の目的には反する。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換は以上とする。 ・「相談支援専門員のあり方」として研修があることは、時間をかけて1年間検討できたと思う。

	<p>意味のあった1年であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の方向性が定まらないところも不安があったが、逆にそのことで慌てずにことを進めることができたと考えれば、良い時間となった。 ・今日いただいた意見をキーワードとして、資料2を事務局で完成させ、自立支援協議会へ報告していくことで了承いただきたい。 ・本日の内容は議事録にまとめるので、何かあればそこで修正をしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・最後に閉会にあたり一言。 ・私自身、自閉症のある人たちの親亡き後の課題について研究してきた。その中で、ソーシャルワークを専門の領域にしているのので、この会には非常に楽しみに参加させていただいた。 ・障害のある方々の領域のソーシャルワークは、レジデンシャルソーシャルワークを専門の領域というものが長年あって、相談支援ということがなかなか広がらなかったということをつくづく思っていたところである。 ・検討会に参加させていただいて、これだけ先駆的な意見がここで集まって、それが拡散していくということがよくわかった。 ・この相談支援というものが、もっと障害領域の中で広まっていくことが本当に重要と感じた。障害の領域の中でも「相談支援」はわかりにくい・見えにくいと思われてしまっていることが多いので、ぜひとも浸透していくものはないかと思いながら1年間関わらせていただいた。 ・私自身が、障害のある方々へのソーシャルワークをきちんと考えていく、発信していくことが重要だということも、気持ちの上では後押しになった。 ・色々ご指導いただき感謝申し上げたい。
--	---

3 閉会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事録を作成し、資料2に落とし込んだものと併せて、皆さんに確認していただきたい。 ・本日で今年度の検討会は終了となる。 ・委員の任期は、要綱上1年となっている。改めて皆さんには感謝申し上げます。 ・この後来年度の委員の就任依頼に入る。 ・来年度の検討会は、4回程度の実施回数を予定しており、事務局としても準備を始めるところ。今年度のまとめや来年度の準備等ご協力いただきたいので、よろしくお願ひしたい。
-----	--